

新しい豊かさ協創2 夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト

【主担当部局：地域連携部スポーツ推進局】

プロジェクトの目標

地域のスポーツ活動が活性化し、スポーツを通じて産業や観光の振興が図られるとともに、本県の選手がオリンピックやパラリンピックなどの国際大会や国民体育大会などで一層活躍し、県民の皆さんが、その姿に夢と感動、郷土の誇りを感じることで、地域の一体感が醸成され、活力に満ちた元気な三重となっています。

そのため、4年後には、スポーツを地域経済の発展等につなげる市町の取組が推進され、また、次代を担うジュニア競技者の育成や、障がい者スポーツの充実などによって、県民の皆さんのスポーツへの関心が高まっています。

評価結果をふまえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度 *	A (進んだ)	判断理由	プロジェクトの数値目標及び4つの実践取組のいずれも目標値を達成することができたため、「進んだ」と判断しました。
----------	------------	------	---

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
県内スポーツ大会・イベントの参加者数	/	187,410人 (169,710人)	192,417人	1.00	197,520人	202,700人 (184,000人)
	182,509人	240,989人	222,169人		/	/

目標項目の説明と平成26年度目標値の考え方

目標項目の説明	県、市町が主体となって実施するスポーツ大会・スポーツイベントの参加者数
26年度目標値の考え方	平成25年度目標値の2%増+1大会あたり平均参加者数1,255人を加えた数値を平成26年度の目標値として設定しました。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
1「スポーツによる地域の活性化」に挑戦します！	「スポーツボランティアバンク」の登録人数	/	250人	400人	1.00	500人	600人
		—	95人	523人		/	/
	スポーツによる地域経済の活性化に取り組む市町数（累計）	/	2市町	4市町	1.00	6市町	8市町
		—	2市町	4市町		/	/

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
2「みえのスポーツを支える人づくり」に挑戦します！	強化指定する高校運動部活動数	—	6部 8部	10部 21部	1.00	20部	20部
	県障がい者スポーツ大会参加者数	1,373人	1,450人 1,300人	1,500人 1,501人		1.00	1,550人

(単位：百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	49	53	61	

平成25年度の実践取組概要

- ①スポーツを通じた地域の活性化を推進するため、「みえのスポーツ・まちづくり会議」を2回開催（7月23日、12月14日）し、幅広い分野の方から意見を聴取
- ②「みえのスポーツ応援隊（スポーツボランティアバンク）」の登録者拡大のための普及啓発（登録者数523名）や登録者への講習会・研修会を開催するとともに、市町等が開催するスポーツイベント等へ派遣（延べ187人）
- ③スポーツを地域の経済や観光の振興につなげるため、スポーツコミッションの推進に向けた市町の取組に対して支援（鳥羽市、志摩市、菰野町、紀北町）
- ④市町等が開催する大会やスポーツイベント等へメディカルサポート（スポーツ医科学に関する支援）の実施（亀山市、名張市、志摩市、菰野町）
- ⑤市町が開催するスポーツ教室やイベント等への県内トップチームの派遣（亀山市、津市、名張市、志摩市、菰野町）
- ⑥競技経験の少ない小中学生を対象とした競技者の発掘・育成（6競技）
- ⑦中学校及び高等学校運動部の指導者の資質向上のため、指導者研修会の開催（高等学校20名、中学校7名を指定）及びみえスポーツアドバイザーの派遣（月16回派遣）
- ⑧中学校及び高等学校の運動部活動の充実を図るため、外部指導者の活用（中学校100名、高等学校70名）やスポーツ特別選考による教員採用（3競技（ホッケー、アーチェリー、ヨット）等による指導者の確保
- ⑨高等学校運動部の強化指定による高等学校運動部活動の支援（15校21部）
- ⑩障がい者スポーツ普及のため、新たな障がい者スポーツ競技団体結成を支援（1団体結成）

【年間実施結果】

平成25年度の成果と残された課題（評価結果）

- ①「みえのスポーツ応援隊（スポーツボランティアバンク）」の登録者数が目標の400人を上回る523名となりました。今後は、登録者の確保に加えて、資質向上にも努め、スポーツを支える人材の育成と活用の拡大を図っていく必要があります。
- ②みえのスポーツ地域づくり推進事業（スポーツコミッション事業、トップチーム派遣事業、メディカルサポート活用事業）については、未実施市町への働きかけを行い、取組市町の拡充を図っていく必要があります。
- ③ジュニア選手の育成のため、ウェイトリフティング、なぎなた、ヨット、カヌー、山岳（クライミング）、水球の6競技団体において、ジュニア発掘に取り組み、新たな参加者を確保できました。

一方で、将来国内外で活躍できるようなトップジュニア選手のさらなる競技力向上に向けた取組を図る必要があります。

- ④各競技団体の指導者や強化担当者、ジュニア選手や中学校及び高等学校運動部の指導者を対象に研修会を開催し、指導者のニーズに応じた指導技術やメンタルトレーニング、コンディショニングの方法など多様な指導技術を提供できました。本県の競技力向上を図るうえで、引き続き、指導者の資質向上に取り組む必要があります。
- ⑤高校運動部強化指定事業については、全国トップレベルにある運動部及び女子に特化した運動部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援しました。今後は、強化指定の対象範囲や支援内容など制度の拡充を検討していく必要があります。
- ⑥平成33年に本県で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、競技団体の育成に取り組み、1競技団体が結成されました。今後、残る競技団体の結成を図るとともに、平成24、25年度に結成した競技団体を含め、既存の障がい者スポーツ競技団体の強化や障害者スポーツ指導員の育成が必要です。

新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議における主な意見

(スポーツによる地域の活性化)

- ①スポーツ合宿で誘致した方を、リピーターとして熊野古道などの観光で再度訪れてくれるような取組を進めることで、交流人口が増加し、地域の活性化につながっている。
- ②オリンピックの事前キャンプ地誘致も、スポーツによる地域の活性化には有効である。インターハイ、オリンピック、国体を迎えるにあたって、スポーツを「みる人」「支える人」の養成が重要であり、今後の三重県のスポーツ文化の醸成に関わってくる。

(みえのスポーツを支える人づくり)

- ③県高体連の調査によると、高校で運動部に所属していない生徒の割合が、男子よりも女子のほうが高くなっているが、その理由として「体力に自信がない」という理由が多数となっており、幼少期の体力づくりが重要になる。
- ④学校の運動部活動は、指導者に惹かれて入部する事例が多いように聞いているので、子どもたちを惹きつける力量のある指導者の確保が大事である。
- ⑤スポーツとは関わりのない人に訴えかける仕掛けが必要であり、ケーブルテレビやテレビなどを通して、アスリートの活動実態について幅広く紹介していくべきである。

(障がい者スポーツの推進)

- ⑥ボランティアなどで、幅広い人が障がい者スポーツに関われるようになるのが理想である。
- ⑦障がい者スポーツの指導は、健常者スポーツの指導者であっても、有益な指導をいただける場合があることから、障がい者スポーツの指導者を幅広く確保する必要がある。

平成26年度の改善のポイントと取組方向

- ①「みえのスポーツ応援隊」のさらなる加入促進と登録者の資質向上に取り組むとともに、活躍の機会の拡大を図っていきます。
- ②スポーツ地域づくり推進事業(スポーツコミッション事業、トップチーム派遣事業、メディカルサポート活用事業)について、未実施の市町での事業実施を働きかけ、スポーツを通じた地域の活性化を推進していきます。

- ③各競技団体と連携し、ジュニア選手の発掘・育成を計画的に進めるとともに、新たに中学校運動部の強化指定を行います。あわせて、国内外で活躍できるトップジュニア選手の育成のために、トップアスリート応援募金を活用して個々の活動を支援します。
- ④高等学校運動部の強化指定については、これまでの指定に加え、新たに、今後の活躍が期待できる運動部も強化指定の対象とするなど、高等学校運動部の強化指定を拡充していきます。
- ⑤中学校や高等学校の運動部活動の充実を図るため、外部指導者の有効活用やスポーツ特別選考による教員採用等を進めていきます。
- ⑥引き続き、全国障害者スポーツ大会の競技団体の結成に努めるとともに、平成 24、25 年度に結成した競技団体を含め、県内全域で活動する障がい者スポーツ競技団体の活動支援や、中級障害者スポーツ指導員養成のための講習会を実施し、競技スポーツの充実を図ります。